

ものか、随分甚しいのを見た事がある。同時に仕様書を適當にする事は甚だ必要であるが餘りに嚴格なものも如何と思う。米國では大低な品物は受取つて居らるゝとの事、又コークス爐、壁用煉瓦で壁の表面に出る所のみはやかましく、他は餘り問題にされないとか、日本でも舶來品の受取は或程度止むをえぬが緩にした事があつた。

(3) 使用ヶ所をなるべく煉瓦製造者に話し相談され失策

のない様にしたい。化學工場などでは時に餘りに秘密にされはせぬかと思う。

以上私はくどくど述べたが要は製造者、使用双方が産業發達の爲に忍び難きを忍んで努力して頂きたいと切願する次第である。終に屢々教えて頂いた小森義重氏、高良義郎氏、碓常和氏其他の方々へ厚く御禮を申上げる。

(昭和 27 年 4 月寄稿)

7 月 號 論 說 豫 告

- | | | |
|-----|----------------------------------|--------------------------|
| 1. | 石炭粘結性の簡易測定法 (I) | { 城井田四博
光山龜郎次 |
| 2. | チェーンストーカ焚反射爐の燃焼試験結果及びその成果について... | { 設樂正雄
上岡田哲三
中村芳太郎 |
| 3. | 電氣傳導度から見た溶融スラグの構成 | { 森一美
松下幸雄 |
| 4. | 不銹鋼合せ板の研究 (II) | { 阿部富美夫
木村熊太郎
齋藤利生 |
| 5. | 鐵及び鐵合金の高温酸化に関する研究 (IX) | 梶山正孝 |
| 6. | オーステナイトの恒溫變態に及ぼす應力の影響 | 山木正義 |
| 7. | 鋼に於ける炭北物の球狀化 (III) | { 佐藤和雄
矢島悦次郎 |
| 8. | 高炭素高 Cr 系ダイス鋼に於ける C の影響 | { 小柴定雄
永島祐雄 |
| 9. | 耐熱鋼の研究 (III) | 淺野榮一郎 |
| 10. | 高爐滓及び平爐滓の S 迅速分析 | 森本武生 |

技 術 資 料

- | | | |
|----|----------------------|-------|
| 1. | 硼素鋼に関する最近の發達 | 長谷川正義 |
| 2. | 日本鋼管改造第三高爐について | 入 一 二 |

研 究 部 會 報 告

- | | | |
|----|-----------------------------|------|
| 1. | 鋼塊鑄型の顯微鏡組織の判定法とその審議經過 | 菊池浩介 |
|----|-----------------------------|------|